

神戸
市会議員ひらの
平野たつじ

発行所

自由民主党神戸市会議員団
神戸市中央区加納町6丁目5-1
電話 331-8181 内線 7060

データを活用したまちづくりと子育てしやすい神戸市・兵庫区へ///

～数字で地域課題を“見える化”。子育て世代の声を未来のまちづくりに反映～

少子化が進む中、住みやすく・子育てしやすいまちをどうつくるか。神戸市や兵庫区が抱える課題を、統計や現場のデータをもとに分析。地域に必要な医療・保育・住宅環境の“配置バランス”を整え、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

(質疑内容はP2に)



2025年6月9日本会議場での質疑

まちなか自習室の拡充に向けて///



先行実施した自習室(神戸市資料より)

～家庭でも学校でもない「第三の学び場」を地域に広げる～

「静かに集中できる場所がほしい」——そんな中高生たちの声から始まった、まちなか自習室の取り組み。地域の空き施設や公共空間を活用し、子どもや学生が安心して学べる環境を広げていきます。学びの場の充実は、未来への投資です。

(質疑内容はP3に)

貧困ビジネスから生活とまちを守る///

～人権と地域の安全を守るために～

ケースワーカーや民生委員の声を活かし、見えにくい人権侵害を早期に察知・対応できる仕組みづくりを提案しました。安心して暮らせる地域と支援現場の環境を守ります。

(質疑内容はP3に)



兵庫運河の水辺の再生から未来の学びへ///



兵庫運河での環境学習

～“海のゆりかご”が子どもたちの教室に。地域と自然が育む新しい学び～

地元の漁業者や市民の手で再生されてきた兵庫運河。多様な生き物が息づくこの場所を、環境学習や研究のフィールドとして次世代に開放していきます。地域で育てた自然を、全国から“学びに来てもらえる”資源に——未来の教育拠点としての可能性を広げます。

(質疑内容はP4に)

データを活用したまちづくりと、子育てしやすい神戸市・兵庫区へ

2025年6月9日の神戸市会本会議にて、私は「データに基づく政策形成(EBPM)」と「子育て世帯の定住促進」を柱とした一般質問を行いました。兵庫区選出の市会議員として、地域に根差した視点を重視し、市全体の動きと地元の課題とを結びつける形で提案を行いました。



質疑動画

■ 1. データを活用したまちづくり～地域ごとの課題を可視化する～

私は冒頭、国全体で進む「EBPM(Evidence-Based Policy Making)」の流れを受け、神戸市においても客観的データに基づいた政策立案を一層推進すべきだと訴えました。

特に注目したのは、神戸市が2023年に開設した「神戸データラウンジ」です。これは市が保有する行政データやオープンデータを一元化し、市職員や民間事業者が活用できる仕組みですが、地域ごとの課題分析や政策立案にまだ十分活かされていません。

たとえば、兵庫区では小児科医の偏在(平野エリアや、運南エリアには小児科がない)や病児保育がないといった課題があります。これが子育て世帯の転出要因の一つにもなっています。こうした状況を、エリアごとのデータで可視化することで、適切な資源配置につなげられると提案しました。

また、BI人材(データ分析やビジネスインテリジェンスに強い人材)の育成や、現場の声を吸い上げながらデータ分析と接続する仕組みの構築を要望しました。

久元市長からは「職員のデータ活用スキル向上に向けた研修や人材育成を進めていく」「データを活用した課題分析は今後の政策形成に不可欠である」との前向きな答弁がありました。

■ 2. 子育て世帯の市外・区外転出を防ぐには？

私は、特に兵庫区において現場からは「小児科が近くにない」「病児保育がない」などの声を多くいただいている。

そこで私は、エリアごとの医療・保育・相談拠点の「配置バランス」を見直すべきと主張。今後の都市インフラ整備は「量」から「バランスと配置」へと転換すべき時期に来ています。

また、若年ファミリー層が暮らし続けるためには、住宅政策も大きな鍵を握ります。



子育てママとの地域対話

■ 3. ワンルームマンションの増加と、 ファミリー層の住まい不足

兵庫区では、近年ワンルームマンションの建設が急増しています。たとえば、2020年度から2024年度にかけて、兵庫区内の共同住宅の新設戸数(1戸あたり30m²未満)は5,235戸にも上り、神戸市全体の約44%を占めています。

これは、市内他区と比較してもかなり高い水準であり、若年単身層や投資目的の住宅が主で、子育て世帯向けの住宅ストックは相対的に不足している状況です。

私は、こうした傾向を是正するため、次の提案を行いました。

- 地域ごとの住宅ストック状況を可視化し、住宅政策のターゲティング精度を高めること
- ワンルーム建設の「抑制」ではなく、子育て世帯向けの「定住促進」につながる仕組みを強化すること

また、既存ストックのリノベーション支援や、住戸の多様性を担保する誘導策も併せて検討すべきと訴えました。

久元市長からは、「兵庫区でのワンルーム建設増加は市としても把握しており、今後、地域特性を踏まえた住宅政策の見直しを検討する」との答弁がありました。

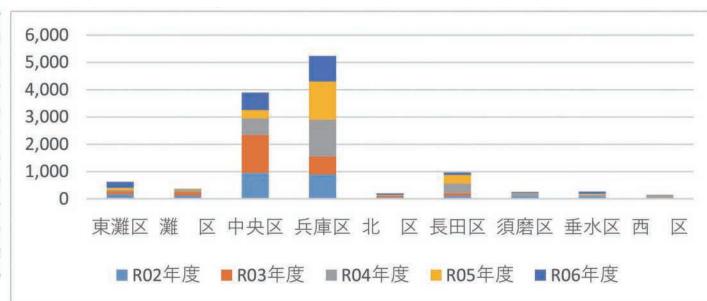
■ 今後に向けて

地域課題は、ひとつひとつの事象だけではなく、住環境・医療・保育・交通などが複合的に絡み合って生まれています。だからこそ、データに基づいた総合的な地域診断と、子育て世帯や住民目線での政策立案が求められます。

私は、これからも「活力ある兵庫区へ」という原点を忘れず、現場の声とデータの両方を政策に反映していきます。

	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R2～R6
東灘区	165	113	36	88	215	617
灘区	114	140	62	43	4	363
中央区	950	1,394	604	299	645	3,892
兵庫区	895	656	1,350	1,394	940	5,235
北区	50	51	14	32	46	193
長田区	110	90	362	313	81	956
須磨区	87	0	126	12	28	253
垂水区	81	0	66	33	80	260
西区	12	30	102	0	0	144
全市	2,464	2,474	2,722	2,214	2,039	11,913

神戸市の直近5年間のワンルーム供給戸数



まちなか自習室の拡充に向けて

～子どもたちの「学びの場」を地域の力で支える～



質疑動画

■ 背景と課題

神戸市では、放課後に中高生が安心して勉強できる場所を提供する「まちなか自習室」の整備が進められています。2025年度は、スマートフォンで簡単に利用できるシステムを構築し、民間のカフェやコワーキングスペースなどを活用して、各区1か所以上・市内15か所以上の設置が目標とされています。

ただし、全ての場所が中高生にとって最適な環境とは限らず、たばこの煙や静けさの確保といった課題もあります。

■ 平野達司の提案

私は、まちなか自習室の更なる拡充にあたって、以下のような具体的な提案を行いました：

● 商店街や、市場の空きスペース(会議室、組合事務所、空き店舗など)を活用することで、

- ① 中高生のアクセスしやすい立地を確保しながら、
- ② 商店街・市場のにぎわい創出にもつながる可能性がある。

● シニアポイント制度(神戸シニア元気ポイント)や「ぼらくる」などの市民参加制度を活用し、見守りや受付などの人材を確保する仕組みを導入すれば、より多くの場所での実現が可能になる。

● 実際に市場・商店街側からも前向きな声があり、これをモデルケースとして活用することで、地域全体の活性化と学習支援を同時に進められる。

■ 市の答弁と今後の展開

副市長からは、「商店街や市場の空きスペースを活用したいという申し出があれば、立地・時間帯・環境など中高生が利用しやすいかという視点から、前向きに具体的な検討を進めたい」との答弁がありました。

■ 平野達司の想い

中学生、高校生より、放課後、自宅以外で安心して勉強(自習)ができる場所の希望が増えてます。

だからこそ、地域に「学びの場」をつくることは、大人たちの責任です。

そしてその場所が、地域の商店街や市場なら、子どもたちと地域がつながるきっかけにもなります。

私はこれからも、地域と子どもがともに育つ仕組みづくりを全力で進めています。



トピックス！！

地域で支える学びの場「まちなか自習室」が2025年7月からスタート！

企業や店舗と連携し、市内39か所のカフェやカーディーラー等の店舗で、中高生向け無料の自習スペースを開設。安心して学べる場を地域ぐるみで広げます。

貧困ビジネスから生活とまちを守る

～ケースワーカー・民生委員の現場の声を活かした対策を～



質疑動画

■ 背景と問題意識

神戸市では、老朽化した住宅に生活保護受給者を囲い込む、いわゆる「貧困ビジネス」とされる実態について、ケースワーカーや民生委員の方々から現場の声が寄せられています。

こうした実態は、

- 劣悪な居住環境による人権の侵害
- 地域景観やまちのイメージの悪化
といった問題につながりかねません。

しかし、最前線で接するケースワーカーや民生委員の方々が、危険や不安を感じながらも、情報を一人で抱え込んでいる状況は看過できません。

■ 平野達司の提案

私は、次のような対策が必要であると提案しました：

● 現場で得られる「違和感」や「小さな異変」を情報としてしっかり集約できる仕組みづくり

→ 情報収集をケースワーカー任せにせず、受け皿をつくることが重要です。

● 関係機関(警察や法的支援機関)と密接な連携体制を構築し、疑わしいケースは早期に共有・対応する体制をつくること。

こうした仕組みがあれば、現場での不安や恐怖感を軽減しながら、貧困ビジネスへの対抗手段を市全体で確保できます。

■ 市の答弁と今後の展開

副市長からは、以下のような答弁がありました：

● ケースワーカーによる訪問調査を通じて住環境や契約状況を把握しており、不適切な住環境が確認されれば、法テラス(日本司法支援センター)等の支援案内や転居支援も行っている。



2025年6月9日の本会議場での質疑

●今後も、警察など関係機関と連携し、被害の未然防止に努めていく。

■ 平野達司の想い

生活保護を必要としている方々が、安心して暮らせる環境を守ることは、行政の大切な責務です。そして、現場で奮闘するケースワーカーや民生委員の方々をしっかり支えることは、市民福祉の土台そのものです。見過ごされがちな「まちのすき間」で起きるこうした問題に、しっかり目を向け、まち全体の信頼と安全を守っていくことが私の使命です。

兵庫運河の水辺の再生から未来の学びへ

～兵庫運河を活かした地域ぐるみの環境教育とまちづくり～

「兵庫運河は、海のゆりかごとして、今あらためて命を育み始めています。」



質疑動画

2025年6月9日の神戸市会本会議。私は、兵庫運河の環境的価値の再発見と、その可能性を最大限に引き出すための具体的な施策について、市に問い合わせました。

兵庫運河は明治期に整備され、神戸港の物流を支えた歴史ある土木インフラです。現在ではその役割を終えつつありますが、近年、地域の皆様や漁業者の手によって水質改善が進められ、再び多様な生き物が生息する“命のゆりかご”として息を吹き返しつつあります。

私はこの再生の流れを、「地域の環境教育の場」「次世代の学びの場」としてさらに広げていく必要があると訴えました。現在、地域の小学校などでは、環境学習の一環として兵庫運河を訪れる機会が設けられていますが、**これを単なる地域学習にとどめるべきではありません**。兵庫運河は、生態系の再生プロセスを間近に観察できる貴重なフィールドであり、全国的にも注目される研究・教育拠点となり得るポテンシャルを持っています。

その実現のために重要なのが、**「環境教育を担う指導者の育成」**です。私は、これまで現場で運河再生活動に関わってきた地域の方々の知見を活かしながら、専門的な視点も持ち合わせた“現場を知る指導者”的の育成と招致を進めるべきだと提案しました。指導者が集まり、継続的な学びの循環が生まれれば、地域の活動はさらに豊かに広がっていきます。また、この動きを持続可能なものとするには、**企業と連携した支援の仕組みづくりが欠かせません**。たとえば、ブルーカーボンの仕組みに基づく「ブルークレジット」や、環境省が推進する「自然共生サイト」の認定に基づく企業向け証明の発行など、**環境価値を“見える化”**することで、企業からの資金提供だけでなく、**人的支援・物的支援・イベント支援**といった多様な協力を得る道が開けます。

私は神戸市に対して、こうした企業との橋渡しを積極的に担い、**支援の選択肢を整理・明確化して提示するよう求めました**。市の側が“つなぎ手”となることで、地域団体と企業のマッチングが加速し、より広がりのある活動が展開できると確信しています。

来年4月には、兵庫運河に環境学習施設の整備が予定されています。この施設を単なる学習空間にとどめず、**地域・企業・行政・教育機関が連携する「学びと交流の場」**として育てていくことが、今後の神戸にとって大きな財産になるでしょう。ゆくゆくは、**他都市の修学旅行の受け入れ先**としても注目されるような施設を目指し、国内外の多くの方々に兵庫運河を訪れていただけるような環境を整えていきたいと考えています。



兵庫運河(あつまれ生き物の浜)

兵庫運河の水辺再生は、自然を守るだけの活動ではありません。それは、地域の子どもたちが自然とふれあい、命の循環を学ぶ場所であり、企業と地域が手を取り合って未来を創る舞台でもあります。兵庫区から、環境と学びの新たなモデルを。この水辺から、まちの未来を育てていきます。

ご挨拶

最後までお読みいただき、ありがとうございました。日頃のご支援に心より感謝申し上げます。私は地域を歩き、皆様の声を市政に届けるべく取り組んでいます。令和7年6月議会での質疑を中心に、市政報告をまとめました。これからも地域の声に耳を傾け、身近で信頼される市政を目指してまいります。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

神戸市会議員平野達司(たつじ)事務所
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61マルシン市場2F
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじ HP

神戸市会の本議会、委員会を
インターネットにて
閲覧できます。



神戸市会